

風のように

甘木教会

主管牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

フィリピ3：20～21

【説教要旨】

ふるさとの 訛なつかし

駐車場の 人ごみの中に

そを聴きにゆく

石川啄木

ご存じの石川啄木の歌で、どんなに自分が都会に慣れても、ふと自分のアイデンティティー（自分が自分である他とはっきりと区別される、一人の人間個性）を確かめるように故郷の訛りを聞ける賑やかな駐車場に出かけるというのです。

自分のアイデンティティーというものは私たちの存在を決めていきます。では、私たち信仰者のアイデンティティーはどこにあるのでしょうか。

新共同訳聖書は、「本国」と訳していますが、口語訳聖書は、「国籍」と訳しています。どちらも良い訳だと思っています。当時の人が聞くと「本国」の方がよく分かったのかもしれませんが。というのは、ローマ帝国を拡大していくなかで多くのローマ人が違う世界へ住み着くことになります。イスラエルにいくと水道、コロシウムなど多くのローマの文化遺跡が異国に作られているのが分かります。異国にいながらローマの人はローマの文化を捨てることなくローマの薫を漂わせ、いつも自分の「本国」はローマにあるというように生活をしていたのです。それは、イエス・キリストを信じる私たちが、この地上を生きつつ、私たちの本国は天にあるといつもそこに繋がっているこ

とで私たち信仰者の生活が日々の中で繰り返されていくことに似ています。そこで、私たちはどう生きるのかということです。

ローマの人がローマの薫をもった街作りをしたように、私たちは天の薫、イエス・キリストの薫をもって暮らすという事です。パウロは、「わたしに倣う」と言います。自分自身を振り返ってよく見てみると人が倣う者に相応しい自分の信仰生活かと言うと、はなはだ疑問です。しかし、「わたしに倣う」という言葉を見過ごすことはできません。

教会讃美歌 352 から今日の「わたしに倣う」ということがどういうことか分かってくるのではないのでしょうか。

「主イエスは我が同胞から こよなきわが恵 暗闇迫るときも われらに恐れなし」、「信仰の弱きときにも かわらじ主の誓い。み言葉かしこみつつ ひたすらたより行け」という言葉です。

私たちキリスト者がキリスト者としてあるのは、主イエスのこよなき恵、変わらず私たちを愛してくださる愛であるということです。

「あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。」(エフェソ 5 : 1) とパウロは言います。ここで注目したいのは「あなたがたは神に愛されている子供ですから、」という言葉です。私たちはまず愛されている存在であるということです。さらに「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。」(8) の言葉です。私たちは何の輝きもないわけですが、イエスさまの愛が私を光輝くものとしてくださるということです。パウロが「わたしに倣うものとなれ」というとき、それは自分が立派なものであるから、私に倣いなさいとっているのではないのです。パウロがキリストの恵、愛を受けて今、ここにいるということです。キリストの愛が、恵みが自分を通して流れ出るように「わたしに倣え」というのです。

次に「何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。」と

という言葉です。キリストの恵、愛は十字架によって示されています。キリストの愛、自ら十字架の上で死によって取るにたらない私たちの過去の罪、今の罪を赦し将来への希望を与えてくださったということですが、「**キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです**」とあるように、「**滅び行く者には愚か**」としか十字架が思えない、そういう者が多いということです。私たちはひたすら罪人である何の値打ちもない私を救うために命をささげてくださったイエスさまを信じていきなさいとパウロは「**涙ながらに**」言うのです。讚美歌は「**み言葉かしこみつひたすらたより行け**」と讚美します。十字架の神の愛にひたすら頼りということ、「これに倣え」とパウロは言うのです。

キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

私たちが、良い人間、模範者になるということの出発でなく、まず私たちが神さまから恵みをいただき、神さまに愛され、キリストの命によって生かされた者であるという本因をもって、典礼聖歌にある「**キリストのように考え、キリストのようにはなし、キリストのようにおこない、キリストのように愛そう**」という者に変えられ、キリストの薫をこの地上にあって、香らせるのです。キリストに愛された私たちは「**盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。**」とある出来事が私たちに起こるのです。

キリストの香りを子どもたちに香らせた甘木聖和幼稚園の休園は、決して終わりではなく、次へのステップです。「**盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。**」とある出来事が私たちに起こるのです。何が起きるか共に希望をもって祈って休園の準備をしましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



「Lesbian」(レズビアン、女性同性愛者)、「Gay」(ゲイ、男性同性愛者)、「Bisexual」(バイセクシュアル、両性愛者)、「Transgender」(トランスジェンダー、出生時に診断された性と自認する性の不一致)の頭文字をとり、LGBTという。こういう人々をトランプ大統領は迫害しようとしている。

イギリス聖公会、アメリカルーテル教会など、LGBTの教職按手を巡って、分裂した。海外の教会は、この問題で大きく動揺し、分裂している。「産めよ、増やせ」、「いと小さき者へ重要」という二つの教義にあって、私たちはどうであるか向かい合う時である。「いと小さき者へ重要」さこそイエス的であると私は思っている。イギリス聖公会、アメリカルーテル教会は、苦しい選択の中で、LGBTと共に生きていくことを選んだ。

多様性、多文化を排除しようという力が今、大きな力となっている。こういう時だからこそ、イエス的に生きていきたい。

園長・瞑想？迷走記



前任地では、小学校の卒業式に出席した。成長した卒園児の姿に驚き、同時にここで、次へ送り出せる

「よかった」という安堵の気持ちがあった。6年の間、子どもたちの成長をいつも祈り、見守っていた。力一杯、小学校生活をしたH君は、ここで感極まり泣くぞと泣いている。これからも力一杯日々を送って欲しいと祈っていた。

甘木聖和幼稚園は2025年から休園になるが、これからも卒園、卒業していった子どもたちのことを思って祈り、いつでも帰ってこられる教会、幼稚園でありたいと思っている。卒園児が成長し、幼稚園のことを忘れても、教会がここにある限り、子どもたちと歩んでいきたい。これが教会立の幼稚園であると思う。

最後の園児、小学校、中学校、高校、大学と卒業していった子どもたちと神は共にいてくださると確信している。新しい出発が祝されますように。また、私たち甘木聖和幼稚園も新しい出発が始まる。

日毎の糧

聖書： 救いの神よ、わたしを離れないでください。
見捨てないでください。 詩編27：9



ルターの言葉から

キリストに向かう者は、憐れみをいただき、恩恵に与る。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

主は必ず、わたしを引き寄せる

信頼の詩篇で、「信頼を表面する詩編中、最も美しいものの一つで、苦難が大きければそれだけ信頼することの喜びを深めて行く信仰者の心をよく表現している。」①

「救いの神よ、わたしを離れないでください。見捨てないでください。詩編27：9」とあるように、しかし、現実には厳しいものがある。しかし、確信は確実であり、その確信が確実として成就するために祈りへと導かれる。祈る、それは、ひたすら、御顔求めていくことこそ、その確信が成就すると神は約束される。御顔を求めていく歩みこそどんなことがあろうと「**主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。**」と神が私たちの苦しみにあって、私たちを引き寄せるという神の行為がはじまるのです。現代の世界の大きな変化にあって、本当に生きづらい現実があります。大きな変化で自分が打ちのめされ押しつぶされようとする弱さ、苦しみがあります。しかし、「**主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。**」と。

27篇は次のように結びます。

「主を待ち望め／雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。」
「ヤハウエが沈黙するかにみえるときにこそ、そうした勇氣（「雄々しくあれ、心を強くせよ。」）と希望（「主を待ち望め。」）を保持し続けよ、と力強く勧告しているかに響く。」②

祈り：主よ、現実の大きな変化の中で、私は打ちのめされそうです。今こそ御顔をあなたに（神に）向ける力をください。

① 新共同訳旧約聖書注解Ⅱ 太田道子 日本基督教団出版局

② 詩編の思想と信仰Ⅱ 月本照男 新教出版

甘木通信



ルーテル教会はどんな教会ということを表明した「アウグスブルク信仰告白」をご存じですか。

「新しい服従について一第6条」。

ルターは色々なところで、言っている。「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。ガラテヤ書5:13」の解説で、「キリスト者がこの自由を誤り用いないように、使徒は相互の愛の律法によって、彼らの肉が僕となるようにしたのである。それだから、信仰者は、自分が良心においては神の前で、律法の呪いや罪や死からキリストのゆえに自由であるが、からだをもっては仕える者であることを憶えるべきである。ここではパウロの戒めるところに従って、互いに愛によって仕えるべきなのである。それだから、だれでもが、その職業において自分の務めを熱心に果たし、なしうるどんな仕方であろうと隣人を助けるように努めるべきである。これこそが、『愛によって互いに仕えなさい。』という言葉をもって、パウロがわれわれに求めているものであって、これは、聖徒が肉に従って自由であることを許さず、聖徒が仕えるように従わせるものにほかならない」①

「新しい服従」とは、『愛によって互いに仕える』ことであり、私たちの教会を形成してきた。こんな小さな教会で幼稚園、保育園、社会福祉事業と多くの事業をしてきた。今の自分だけしか考えない時代だからこそ「新しい服従」は教会として大切になってくるのではないのでしょうか。ルーテル教会はどんな教会？

引用文献:①『ルター著作集第2集 1 2ガラテヤ大講解下』徳善義和訳 聖文舎)

参考文献:『アウグスブルク信仰告白とその解説』石居正己訳 徳善義和訳 聖文舎

(甘木日記)土) 家内は食事もせずに寝ていたが、「休んで良いよ」と言ったが、午後から甘木へ一緒に向かう。 駅にM牧師が迎えに来てくださり助かる。日) 礼拝、午後から久留米教会役員会。月) 幼稚園の2025年度のことを考えるために遅くまでスタッフで協議。同僚で同じ年の。牧師が急に帰天。火) 卒園式の練習。甘木聖と幼稚園の感謝礼拝、会の式文を役員に送る。3・11東日本大震災から14年目。M姉の脚の手術は無事に終わったとご主人から電話をいただく。水) 感謝礼拝のために皆さんが準備している。準備にそれぞれの違いがあってよい。木) 夕刻より主日感謝礼拝の準備で甘木へ行く。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土) なかなか胃の重さも取れず、家内は寝込んでいる。ゼリーだけを置いて、家内に必要な物を購入する。「明日の朝、甘木に行くから、寝ていて、休んでいいよ」と言う。昼頃、布団を畳み、お粥を食べたので一安心。「明日よりも今日、行きたい」と。「無理はしなくても良いよ」というが、言い出したら聞かない。昔の牧師夫人、化石。甘木駅にM牧師が迎えに来てくださり助かる。薬局に寄り、ポカリスエットなどを購入。夜、5月への教会総会のための航空券をインターネットでの購入を長男にしてもらう。多くの人に助けられている。総会といっても引退のご挨拶。日) 庭の掃き目を見ながら今日は大丈夫かどうかを確かめる。物価高なので、礼拝出席しているインドネシアの青年に少しでも助けになればと米をプレゼント。礼拝後、少しお茶の会に出て、久留米教会役員会へ向かう。幼稚園の25年度骨格方針を承認いただく。月) 幼稚園の25年度骨格方針を具体的に再度、主任、事務方、教会役員としていると20時になる。家に帰るとぐったりである。同僚で同じ年の〇牧師が急に帰天。義理の他教派の牧師の教会で葬儀。全てを終えた後に報告。最後まで生き方に芯があり、つまず、孤高の人だった。良い時に帰天かもしれない。歳の近い同僚の安否の電話。火) 3・11東日本大震災から14年目。卒園式の準備をしていた。園庭の桜の木が大きく揺れた。帰宅できず先生方、園児が幼稚園に残る。食事を用意。福島の記憶が蘇ってくる。その後、ボランティアに出かける。福島に入るとガイガーカウンターがけたたまし（津波で被災した教会後に建てられた記念碑）い音を出して反応した。そのとき、原子力発電所が破壊されたことによるその怖さについて実感はなかった。徐々に震災の凄さが分かって来る。幼稚園、教会の耐震工事のすぐに準備に入る。今日は久留米は何もなく卒園式の準備。平穏が第一。M姉の脚の手術は無事に終わったとご主人から電話をいただく。これからリハビリ、主の支え在りますようにと祈る。水) 甘木に感謝礼拝の準備と職員会議を終えてすぐに家に帰るが、体が動かない。老いた。花粉症も今年はずらい。一時間、相談にのっていると祈りとみ言葉をいただく。「そのまま、われを愛する」という讚美歌が脳裏で讚美している。口の中に口内炎。今日は用心して甘木へは行かず、休もう。信徒さんは甘木聖和幼稚園休園の準備のためにいろいろな形で協力してくれている。少し休んで次へ踏み出そう。木) 明日は久留米・日善幼稚園の卒園式。その準備も終わり、いつもより早く主日の準備に夜、甘木へ行く。甘木から発信。

